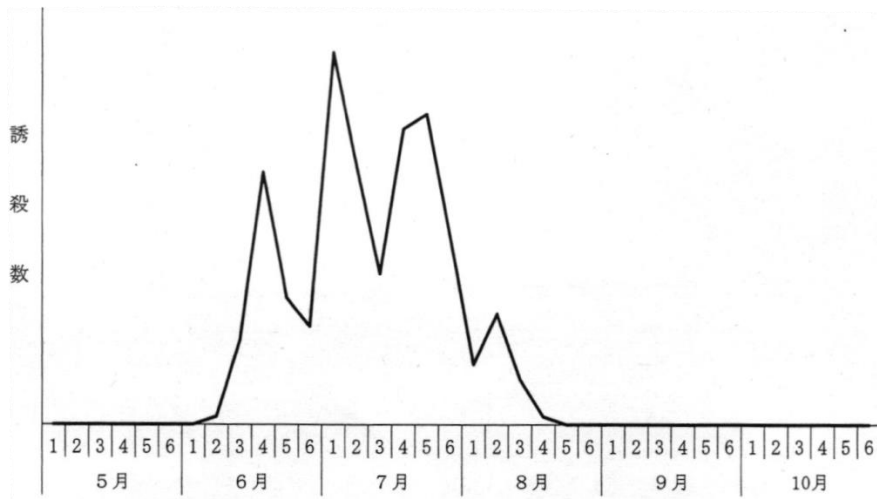


クビアカスカシバ誘殺消長

クビアカスカシバのフェロモントラップ誘殺消長（平成 29 年調査）

平成 22～24 の平均年間の消長模式図：果樹試験場内



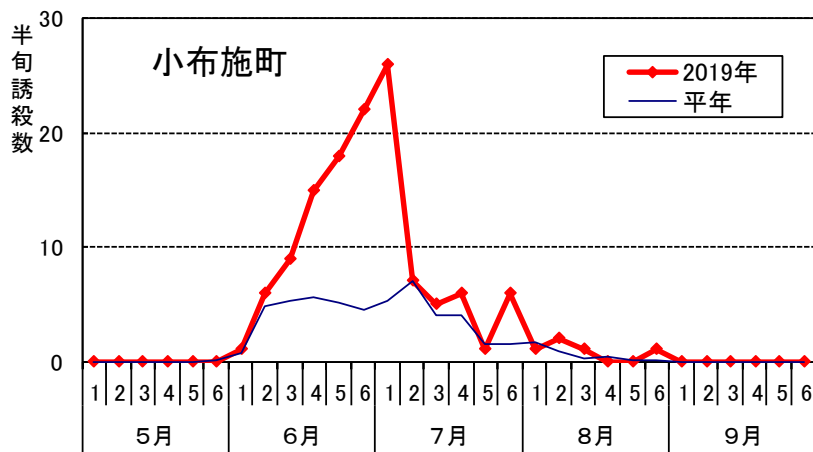
フェロモントラップによるクビアカスカシバ成虫の発生消長（長野果樹試 平22～24の平均）

【発生生態と防除のポイント】

（標高約 350m）

- ・年 1 回発生する。
- ・終齢幼虫が 10 月頃被害樹から土中に移動し、地表から数センチのところまで土壌をつくり越冬する。
- ・成虫は 6 月中旬頃から羽化し始め、8 月中旬頃まで産卵する。
- ・体長は約 3 cm、翅は透明でスズメバチに似ている。
- ・食入部の早期発見や枝幹部への薬剤のかかりを良くするため休眠期に粗皮削りを行う。
- ・幼虫発生始期から落花 10 日後（果粒の小豆大期）までと 7 月下旬から 8 月上旬（袋掛け後）の 2 回、登録のある殺虫剤を幹枝部に十分かかるように散布する。
- ・幼虫の食外部を見つけたら捕殺する。

小布施町（病害虫防除所調査）



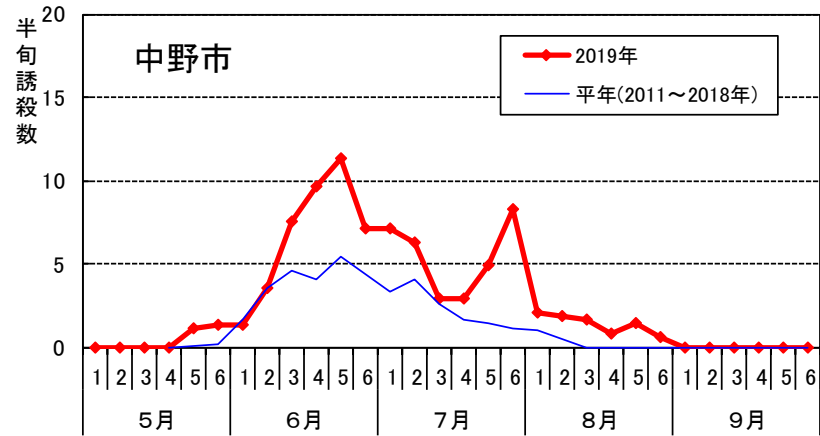
【調査地点】（標高約 340m）

- ・小布施町のブドウほ場

【コメント】

- ・平年は 2009 年～2018 年の平均値。
- ・調査終了。

中野市（北信農業改良普及センター調査協力）



【調査地点】（標高約 360m）

- ・中野市のブドウほ場

【コメント】

- ・平年は 2011 年～2018 年の平均値。
- ・調査終了